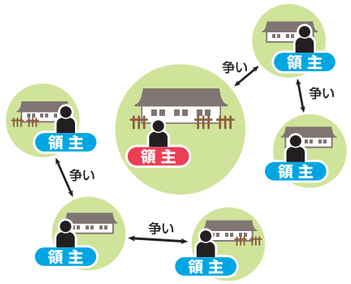
地方統治からみた江戸時代とは?

16世紀までの日本では、領主が自身の領地と権力を守るために城などの拠点を構え、軍事力を持って領地を自ら支配していたため、領地をめぐる争いが頻発していました。

そんな中、17世紀初頭に徳川幕府による日本国内の統一がなされました。そして、同時代の諸外国とは異なる、新しい地方統治の仕組み「大名統治システム」が成立したのです。

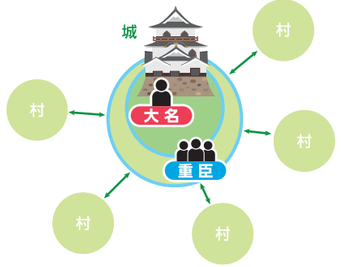


15 ～ 16 世紀の軍事・統治拠点

大名統治システムの特徴

その１
大名が徳川幕府から領内で唯一の統治拠点を与えられ、その権威を示す

その２
重臣たちに領地と領民の個別統治を行わせず、自らの統治拠点に集住させて、ともに政治を行う



江戸時代の地方統治拠点

「大名統治システム」の成立は様々な権力が入り乱れることによる混乱を防ぎ、江戸時代の社会秩序の安定に大きく寄与しました。その結果、安定した生産活動が可能になるとともに、文化活動が盛んとなり、大名や庶民の新たな文化が開花しました。

世界遺産登録の意義

世界遺産とは、地球の生成と人類の歴史によって生み出された、過去から現在に生きる世界中の人々に引き継がれ、そして未来へと伝えていくべき人類共通の遺産です。

彦根城を世界遺産に登録することによって、世界の歴史の１ページに刻まれ、価値が広く世界に伝わることに繋がります。

世界遺産に登録される遺産は、文化財保護法や自然公園法といった国内法により保護されていることに加え、国際的な枠組みでも保護されることになり、専門的な助言や技術協力等を得ることができます。

活用についても、多くの人々に魅力を発信し、遺産の保存や継承の大切さを伝えるという本来の目的を十分に認識した上で、未来に活かす「資源」として保存と活用の循環の中で、文化の継承と両立させることが必要であると考えています。



世界遺産への道

- **1992年** 世界遺産暫定一覧表に掲載
- **2026年9月3日** **国内推薦候補に選定**
- **2027年（目標）** ユネスコに推薦書を提出／イコモスによる審査
- **2028年（目標）** 世界遺産登録

詳しくはHPで

彦根城を世界遺産に

編集・発行　彦根城世界遺産登録推進協議会（滋賀県・彦根市）

［事務局］滋賀県観光文化スポーツ部　文化財保護課　彦根城世界遺産登録推進室
〒520-8577 滋賀県大津市京町四丁目 1-1
TEL. 077-528-4682 ／ MAIL. hikonejo@pref.shiga.lg.jp

Hikone Castle Town 彦根城を世界遺産に

発行 2026.11

HIKONE CASTLE

彦根城。

HIKONE CASTLE COMPLEX

堀から、天守まで。
彦根城の全てを
世界遺産に

Hikone Castle Town 彦根城を世界遺産に

「彦根城」の世界遺産としての価値

大名井伊家の居城として**歴史的重要性の高い**「彦根城」は、17 世紀初頭に築かれました。江戸時代（1603-1867）の長期間にわたる社会秩序の安定に大きく寄与した地方統治※の拠点のひとつです。その中でも、彦根城は現在まで地域住民の心の支えとして様々な形で保存され、**城全体が最もよく残っている**ことから、「権威の象徴」および「機能の集約」という二つの特徴によって、大名による地方統治の仕組みとその価値を示すことができます。

この特徴が反映されているのが、堀･石垣･土塁、天守･櫓・門、御殿、重臣屋敷です。

※詳しくは裏表紙「地方統治からみた江戸時代とは？」で解説！

●●● 大名井伊家の重要性 ●●●

大名井伊家は、幕府政治の最高顧問であるグループの筆頭として、将軍を支える最も重要な地位にあり続け、徳川の政治を模範的に実行していくことに努めました。

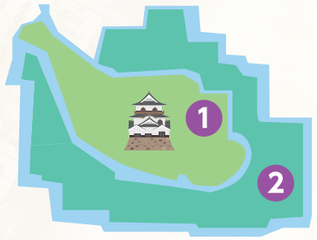
また、徳川幕府から 30 万石という大規模な領地の統治を任され、他の城に移ることなく一貫して彦根城主を務めました。



HIKONE CASTLE COMPLEX

Characteristics

城に現れる統治機能の特徴



［その1］権威の象徴

城全体の空間は、堀や石垣・土塁によって外部と明確に分けられています。大名が住む第一郭(❶)を中心に、その周囲を重臣が住む第二郭(❷)が取り囲む二重の構造です。第二郭の外側の堀では、人々の出入りを厳しく制限し、城の内部を統治のための閉ざされた空間としていました。

また、天守や櫓・門などで見せる城全体の外観は、領内で唯一の地方統治者としての権威を象徴しています。

［その2］機能の集約

第一郭に大名の住まいで政治の場となった御殿、第二郭には重臣の住まいで合議の場となった重臣屋敷が配置されています。全ての重臣とその家族は、常に城内に配置された屋敷に住むことが義務づけられ、第一郭と第二郭の内部に、大名と重臣の居住空間と政治機能が集約されていました。

さらに、彦根城では第二郭に大名庭園や学問所が設けられています。大名と重臣が集まり、文化活動を通して教養を高め、価値観の共有がなされました。


玄宮園


1

第一の堀と石垣・土塁

内部において大名の御殿がある第一郭と重臣屋敷がある第二郭とを区切る境界です。階層的な秩序を示す役割がありました。


2

第二の堀と石垣

物理的に城の内外を明確に区別し、内部は統治のための閉ざされた空間でした。


3

天守

城全体の象徴的な外観の中心となった建物です。幕府によって正統性を認められた地方統治者としての権威を示していました。


4
佐和口多聞櫓

櫓・門

防御機能を物理的に示すとともに、権威の象徴としての機能を高める役割がありました。


5
表御殿

御殿

公的空間と大名の住まいである私的空間に大別されます。公的空間は、重臣の合議の場であり、特に重要な事柄については大名の判断を仰ぎました。


6
庵原屋敷長屋門

重臣屋敷

第二郭の大部分を占めるように配置されています。重臣の合議の場として、大名統治システムの運用において重要な役割を果たしました。